

平成27年度英真学園高等学校 学校評価

校長 大目美日古

1. めざす学校像

「みんな ちがって みんないい」(金子みすゞ 『わたしと小鳥と鈴と』より)の合言葉のもと、教職員・生徒一人ひとりが、自分とは違う他者の個性・特性を認め合い、共生しながら楽しく豊かな学園生活を過ごすことができる学校をめざす。

生徒一人ひとりが、基礎的な学力・知識を確実に身に付け、さらに発展的な学力を身に付けることができるような学習環境づくりを行なうことにより、社会で生活できる人間力や問題解決能力を養成出来る学校をめざす。

基本的な生活習慣が確立し、社会的規範やルール、マナーを守り他者の模範となれる生徒や社会的組織のリーダーとなれる生徒を創り出せる学校をめざす。

2. 中期的目標

1. 生徒の学力育成を図る

* 生徒の学力の到達度の正確な把握と個々の生徒の学習状況に応じた指導の実践を行なう。

・ マナトレを利用した基礎学力の向上の推進を行なう。

・ 夏・冬・春に進学講習会、夏に進学合宿、グレードアップセミナーの開講により更なる学力向上をめざす。

・ 大学進学者 100 名以上を目指す。

* 教員の授業力の向上と教員の連携による授業の充実によって「わかる授業」の実践を行なう。

2. 生徒の豊かな人間性を育み、人間力の育成を図る。

* 自己をいろいろな角度から知るという「自己発見」に取り組ませる実践を行なう。

* 「みんな ちがって みんないい」の理念をもとに、一人ひとりの個性・特性を理解しあうことにより社会共生できる力を育む実践と人権尊重の意識を高める実践を行なう。

* 基本的な生活習慣の確立をはかり、遅刻・欠席をしない指導を行ない、転学や退学する生徒の減少を図る。

* 挨拶の励行、学校のルールや社会規範を守らせること、また、HR活動・生徒会活動・クラブ活動の活性化を通して、生徒リーダーの育成を図り、楽しく充実した学校生活を過ごさせる実践を行なう。

* キャリア教育の実践により、自己実現をめざしてのライフプラン作成能力の育成を図る実践を行なう。

* グローバル化の進む社会に対応できる力を育めるように、いろいろな場面で異文化理解・国際理解に取り組んでいく。

3. 地域に根付いた学校を目指す。

* 淀川の環境保全活動や地域の行事への生徒参加により、地域に愛され、地域に根付いた学校をめざす。

4. 教職員全員による渉外活動に取り組む。

* 本校の継続的発展と安定した教育体制と経営基盤を築くため、生徒募集に教職員全員が何らかの形で参加できる体制を整えていく取り組みを進める。

* 教職員の姿、生徒の姿を見てもらい、“行きたい学校” “行かせたい学校” となるよう取り組む。

<p>力の育成を図る</p>	<p>キャリア教育の実践</p> <p>進路未決定率の減少</p> <p>生徒リーダーの育成</p>	<p>ーマに戦場ジャーナリストを招いての講演を行なう</p> <p>3年…デートDVについて考える講演を行なう</p> <p>キャリア教育年間プログラムにもとづき取り組む。</p> <p>1年では自己発見、2年では自己の進路の方向性を、3年では自己の進路決定を目標に、そして全体を通しては自分のライフプランを計画できる力、自己実現力をつけさせる取り組みを行なう。</p> <p>卒業時に進路を未決定のまま卒業する生徒を8%以下にする取り組みを行なう。</p> <p>生徒会活動、クラブ活動、HR活動においてリーダーとなる生徒を育成する。</p> <p>運動部クラブ合同合宿の実施</p> <p>体育祭における団活動</p> <p>生徒会行事における行事実行委員</p>	<p>キャリア教育アンケート結果</p> <p>キャリアノートへの取り組み状況</p> <p>進路決定率</p> <p>クラブ合同合宿参加クラブ数・生徒数</p> <p>行事実行委員生徒数</p>	<p>では、子どもや高齢者、女性の生命や人権が脅かされていること、またデートDVを身近な物として捉えることができたとの、良い結果が出ている。</p> <p>計画的なキャリア教育の実践ができた。3年生では社会人準備講座として、様々な分野から外部から講師を招き学習を行なった。</p> <p>1年においては自己の発見、2年においては大学や専門学校を使つての進学体験・職業体験を行い、生徒たちは大いに興味を持ったとの結果が出ている。</p> <p>キャリア教育推進の効果により27年度は進路未決定率8%以下を達成することができた。</p> <p>生徒会活動においては、執行部の取り組みが良く、行事実行委員に参加する生徒も多く現れた。</p> <p>運動部合同合宿において参加した生徒達から、団活動の団長や協力者が多く現れ生徒の活動が活発化した。</p> <p>体育祭における団活動も昨年までの4団編成から5団編成へと変更して取り組ませ、成功することができた。</p>
<p>3地域に根ざした学</p>	<p>淀川環境保全活動(CUP)の実施</p> <p>十三地域との連携を図る</p>	<p>毎年実施しているCUP(淀川河川敷)の環境保全活動を実施する。</p> <p>学校、生徒会、PTA、地域団体による取り組みを行なう。</p> <p>CUPのためのフォーラムを開催する。</p> <p>十三地域の諸団体との連携と諸行事への参加</p>	<p>CUPへの生徒参加率</p> <p>CUPでの回収ゴミの量</p>	<p>27年度については前日降雨があり、開催当日の会場の足場が悪く環境保全活動(清掃活動)は中止となった。</p> <p>CUPフォーラムについては実施した。</p> <p>学園祭において地域の小学生の子供会との催事に取り組んだ。</p>

校をめぐす				十三地域の行事への参加を行なった。
4 教職員全員による渉外活動に取り組む	教職員全員による渉外活動	生徒募集に活動にかかわる行事に全教職員が取り組む (中学校対象入試説明会・塾対象入試説明会・学校見学会・オープンスクール・私学展・イブニング説明会・その他の入試説明会)	各行事での教職員の参加率 中学生・保護者の参加者数	オープンスクール・学校見学会において、全教職員がそれぞれ任務・業務分担を行い取り組んだ。 また、今年も生徒会の生徒やクラブ生徒が積極的に役割を果たし活気のあるものとなった。 中学生・保護者の参加数も昨年度を上回ることができた。 27年度より、土曜日の説明会に参加できない保護者を対象に、生徒の通学圏内の主要な15箇所で、仕事終わりに相談に寄っていただけるよう、夜間の入試説明会を開催した。初年度ということで各会場での相談件数は多くはないが、今後も開催していきたい。

4. 学校評価（自己評価）分析

学校評価（自己評価）

調査対象 57名 回答数 56名 1名は休職中のため回答できない

調査方法 4段階評価

A：よくあてはまる

B：ややあてはまる

C：あまりあてはまらない

D：まったくあてはまらない

調査項目の分析

平成26年度までの40項目に、27年度は年度当初の方針会議や職員会議において校長や各分掌から提議された重点的な取り組み6項目を加えて46項目にて学校評価（自己評価）を行なった。

27年度においては8項目を除いて、各項目とも26年度と同様に高い割合で肯定的な結果が出ている。特に、情報公開における学校ホームページの活用、教育内容における授業の進度、生徒指導の指導体制と課程との連携、特別教育活動における生徒会活動とクラブ活動においては肯定的と評価する割合が80%を超えている。

さらに、重点的な取り組みの6項目中4項目、生徒指導部の遅刻者数の減少、進路指導部の進路未決定率の減少と大学進学者数100名以上へ、特活指導部の生徒リーダーの育成については同じく80%を

超える肯定的な評価となった。

他の項目についても、肯定的と評価する割合が70%を超えるものが圧倒的に多い。

反対に、肯定的とする評価が低かった8項目については何らかの改善に向けた方策を見つけていかねばならない。

5. 今後の目標

生徒が生き生きとした学校生活を過ごせるように、教育・学習活動、生徒指導、特活指導、人権教育、支援教育、キャリア教育の推進と充実を図る方策と体制の確立をめざす。

生徒の人間力、問題解決力を高める取り組みを行い、社会に有用な人材として送り出せる取り組みを進めていく。

また、本校は「未来探しの宝箱」のキャッチフレーズに即して、様々な知的好奇心や関心、さらに職業体験等を通して、卒業時における進路決定率をさらに高める取り組みを進める。

さらに、入学してきた生徒に対し、きめ細かく対応することにより「面倒見のよい英真」の声をより高めるために、転学生・退学生を27年度以上に減少させる取り組みを進める。

社会的規範を守り、他者に対する慈愛の心が溢れた人権意識の高い生徒の育成に取り組む。